令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 宮古島市社会福祉協議会	代表者	野原 勝	法人・事業所の特徴	社会福祉協議会が運営する事業所で、老人福祉センターを改修した建物であることから、昔からある地域に馴染みの存在である。利用者の平均介護度は2.6と日常生活全般に介護を要する方が多く、又半数以上を認知症の方が占めており、認知症ケアを主に、「誰もが人として大切にされ、安心して暮せる地域づくりに貢献できる事業所を目指します。」を理念に掲げて、地域に根差した事業所を目指している。
事業所名	宮古島市社協小規模多機能型居宅介護事業所きゅーぎ	管理者	奥松 千恵美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	4人	1人	0人	1人	0人	2人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	評価について取り組んでいること、取り組んだ内容が周知できるように出入りの多い玄関に掲示する。	事業所自己評価の内容と改善計画を玄関に掲示したことにより、利用者や家族が事業所の取組内容を理解しやすくなり、透明性が向上しました。 ・内容がわかりづらいとの指摘もありました。	・掲示する以外にも内容を配布するなどして周知してはどうか。	・玄関以外にもご利用者の目にとまる場所に掲示する。 ・ご利用者やご家族にみて頂けるように配布する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・地域でヤギなどを飼育する方が必要なタイミングでいつでも草を刈り取っていいということを知っていただく。 ・毎日の清掃や定期的な環境美化活動を職員全員で実施する。	・地域からヤギ飼育者が草刈りに来る機会が増えたが草木の成長が早くすぐに荒れてしまう。 ・清掃・美化活動については職員全員で継続的に実施。 ・玄関施設対策: 施設はせず、出入りが分かるよう鈴を設置。	・会議での意見: 地域の方々に事業所の内容を広めるためには自治会長を通じた広報もあったほうが良い。 ・自販機の設置もあり、地域の方も立ち入りやすい雰囲気になっている。	・施設内の安全点検を定期的に実施し、安全性を確保する。 ・鍵の管理を徹底し、紛失や盗難を防ぐ。 ・毎日の清掃活動に加え、定期的な環境美化活動を実施し、気持ちよく過ごせる環境を提供する。
C. 事業所と地域のかかわり	・包括支援センター担当とも連携し地域に出向いて認知症についての理解を深める勉強会、意見交換会を実施する。 ・地域の方がいつでも気軽に立ち寄れる事業所であるように敷地内に自販機を設置する。 ・介護サービスの受け入れができるようにしていく。	・地域の理解促進の為、高齢者支援課と連携し、認知症についての勉強会・意見交換会を実施。	・自治会長を通じて情報を配布することで、地域住民へ認知度を高めてはどうか。 ・地域の理解を深めるために勉強会や意見交換ができる場をもっと増やした方がいい。	・事業所のスタッフが地域の行事やイベントに積極的に参加することで、地域との関係を深めることができる。 ・認知症についての勉強会や意見交換を地域で実施することにより、地域全体での理解を深め、協力体制を強化する。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の中だけで完結せずに、必要なタイミングで必要な場所に出向くことができることを本人や家族へも改めて知っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会や選挙会場への送迎、利用者の参加支援を実施。 ・地域での支援については家族がいない方への支援体制の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のサービスが「寝泊まり型」と誤解されるケースがあり、地域への理解促進が必要。 ・必要なタイミングで必要な場所に出向くことができ、利用者やその家族が安心してサービスを受けられている。 ・地域で開催されるイベントに利用者が参加できるように支援できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに応じたサービス提供をさらに強化する為、地域住民とのコミュニケーションを増やし、イベントや活動に積極的に参加する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な開催をする。 ・事業所の現状を知っていただき、また、地域の問題について意情報共有と意見交換ができるような場にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催頻度も予定通り年6回で進行。 ・ケアマネ不足や人材確保が地域の課題として挙げられることを共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を定期的で開催することで、事業所の現状を把握し、地域の問題について情報共有を行う場を設けることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の日程を年度初めに決定し、事前に配布する。 ・地域の問題について情報共有を行い具体的な事例をもとにした意見交換をする。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のある地域の自治会長へ推進会議に参加してもらい、いざという時に協力し合える体制を築く。 ・有事の際の避難については常に話題にあげ、備える。 ・建物倒壊のリスクから身を守る行動について必要な物品等あれば揃えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会長へ推進会議に参加してもらい、防災について話し合った。 ・台風対策の時には スタッフが個別訪問し、安全確認・対策支援を実施。 ・今後の課題としては利用者以外の地域住民の受け入れや、福祉避難所の条件緩和が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や地域の防災組織との連携が重要。緊急時に協力し合える体制をつくった方が良い ・「建物が古いこともあり、地震による建物の倒壊は免れないと思います」 ・「事件、事故などに備えた防犯対策も必要だと思います。」 ・災害時に必要な物資の備蓄状況を確認し、不足があれば定期的に補充するようにした方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災会議に参加し、情報共有を行う。 ・事業所の避難計画を最新の状態に保ち、全職員が理解している状態を保つ。 ・災害時に必要な物資を適切に備蓄し、定期的に管理する。 ・年2回以上の防災訓練を実施し、職員と利用者の防災意識を高める。